【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和７年度学校評価　結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立打上小学校

1　前年度 評価結果の概要	・　児童の学力向上に向けて、なかよし学習は教員が共通理解・共通実践を行った。 ・　特別活動や体験活動を通して、児童の自己肯定感や郷土愛を育むことができた。また、将来の夢をもたせることにもつながった。 ・　道徳の授業改善、人権・同和教育、特別支援教育を推進し、教員の知識と技能を向上させるとともに活用や情報交換を行い、児童への支援を充実させた。
2　学校教育目標	**地域や仲間を思い　夢に向かって輝く子どもの育成**
3　本年度の重点目標	◇なかよし学習(主体的で対話的で深い学び)の中で、子どもが活躍する授業づくりを実践し学力を向上させる。 ◇児童会・縦割りブロック活動や体験活動の中で支持的風土を醸成し、児童の人権意識や自己肯定感を高める。 ◇業務の精選・効率化を図り、時間外在浩時間を減らす。

4　重点取組内容・成果指標　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○なかよし学習を軸とし、自分の考えを表現する場を設定した授業の実践	○授業で「自分の考えをもち、友達に伝えることができた」と肯定的な回答した児童80%以上	・「唐津の学びスタイル」に合わせたなかよし学習の実践を図り、深い学びへつながる授業改善を行う。 ・チェックシートを活用して、学期ごとに振り返る機会を設定する。	A	・算数科を中心としたなかよし学習を軸とした授業展開に加え、全体研2本、職員間の授業参観、講師を招聘しての学力向上研修を行った。 ・「学習の中で、自分の考えをもち、それを友達に伝えることができた」と肯定的な回答をした児童90%、教職員100%、保護者96%という結果だった。	A	・児童の全国調査および県調査の結果は、先生方のご指導と児童の努力、そして家庭の協力により、唐津市および佐賀県の平均を上回っている。継続的な取組の成果が表れているのではないだろうか。	◎(学力向上) ・(研究主任)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権意識や自己肯定感,規範意識を育むことができたと回答した児童が85%以上	・人権集会の開催や道徳の授業、人権教材、人権・同和教育に関する教材等を活用した授業等を通して、人権教育の推進を行う。	A	・「自分や友達を大切に正しい行動をしようとしている」に対して肯定的な回答をした児童は90%だった。人権・同和教育等の教材の活用については、学年によってばらつきがあった。担当からの周知、呼び掛けがもっと必要であった。	A	・「自分や友達を大切にし、正しい行動をしようとしている」という項目に対して否定的な回答をした10%の児童についても、丁寧に寄り添いながら支援していってほしい。	◎(人権・同和教育) ・(道徳推進教師)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について、組織的対応ができていると回答した教職員90%以上	・なかよしアンケートを毎月実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。児童からの訴えを教職員で共通理解する。 ・日々の児童観察を大切にし、気になることへの早期発見・早期対応に努める。 ・生活指導協議会で気になる児童への対応を共通理解した上で、組織的な対応を行う。	A	・なかよしアンケートを毎月実施し、いじめの早期発見・早期対応に努めた。 ・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教職員100%という結果だった。 ・日常で児童の気になる様子が見られたときは職員間での情報共有をすばやく行った。 ・生活指導協議会は、全職員の共通理解の場となった。その中で重要案件については、管理職や外部機関と連携しながら対応することができた。	A	・放課後児童クラブ内における児童の言動が気にかかる。学校と児童クラブが一層連携を深めることで、さらなるいじめ防止につながることを期待している。	◎(なかよしアンケ) ・(生活指導)
	●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒**90**%以上 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒**90**%以上	・自己肯定感が高まる取組を行い、積極的に教師の話や掲示物等で紹介するなど努める。 ・外部講師を積極的に呼び込み、キャリア教育を充実させる中で、自分の夢や目標をしっかりともたせる。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は80%にとどまった。「ほめて育てる」を共有する必要がある。 ・「将来の夢や目標をもっている」という項目に肯定的に回答した児童は85%であった。講師を招聘したものの、児童一人一人が自分の夢や目標をしっかりともてるよう、事後の取組も必要である。	B	・「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上という成果指標は、高すぎではないだろうか。 ・先生方はほめているつもりでも、それが児童に伝わっていない場合もある。「ほめて育てる」ことは良いことだが、難しいこともある。	・特活部 ・(キャリア教育)
	○他者とのかかわりの中で「安心」を実感できる教育活動。	○児童会やブロック活動、体験活動で仲良く助け合いながら取り組むことができたと回答した児童85%以上	・児童会、ブロック活動を充実させる。 ・ブロック掃除での「さしすせそうじ」の取組を協力してさせる。	A	・児童会やブロック活動、体験活動で仲良く助け合いながら取り組むことができたと回答した児童は90%と目標数値を上回った。他者との関わりで安心をもてるようにこれからも活動を充実させていく。	A	・この地域は、大人になっても縦と横のつながりが強いので、このような取組を今後も続けていってほしい。	・特活部
●健康・体つくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●衛生検査(ハンカチ、ちり紙、爪)で忘れていない児童70%以上 ●アンケートで「毎日欠かさず朝食を食べている」と回答した児童80%以上	・ほけんだよりで啓発を行うと共に個別指導を行う。 ・家庭科や保健の授業の中で、健康に良い食事について指導し、生活に生かすことができるようにする。また、健康委員会が、放送での「より良い朝食」についての呼びかけを行う。	A	・ハンカチ、ちり紙、爪で忘れていない児童は、毎月90%以上だった。ほけんだよりで毎月忘れていない児童の紹介を行ったり、健康委員会が全校放送やポスターを活用したりして、意識向上を図った。 ・アンケートで「毎日欠かさず朝食を食べている」と回答した児童は91%で数値目標を達成することができた。今後もさらに、望ましい食習慣についての指導や啓発を継続的に行っていく。	A	・放課後児童クラブでは、ハンカチやちり紙を携帯していない児童がおり、ランドセルから取り出している様子が見られる。また、持参していない児童もいる。児童が必要なときにすぐ使用できるようになることが望まれる。衛生面に関する調査の在り方については、なお課題が残る。 ・児童の中には、土日や祝日に朝食を食べていない子もいるようだ。	・保体部
	○体力向上を意識した取り組み	○スポーツチャレンジで全学年1種目参加	・職員への呼びかけや、校内掲示物等で啓発を行う。	A	・6学年中5学年でスポーツチャレンジに2種目参加することができた。今後も児童の体力向上に向けて、スポーツチャレンジ期間以外での体力向上の取組を推進していく。	A	・引き続き、体力向上に向けた指導をしてほしい。	・保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・長期休業中の研修を精選する。 ・校時表を見直し放課後の時間を確保する。また、教務と連携し、月1回全校5時間下校日を設ける。 ・定時退勤日を推奨する。	B	・研修の実施や継続的な声掛けを重ねたことで、教員の意識改革と働きやすい労働環境の醸成が進み、時間外在校時間は全員が45時間を下回った。 ・長期休業中の研修内容の精選や放課後の時間の見直しを行ったことで、年次休暇を取得しやすい環境が整い、取得平均日数は昨年度を上回った。しかし、14日以上取得した教職員は1名だけだった。	B	・年休を取得しづらい状況は、改善していく必要がある。一方で、学校現場の人手が不足している現状では、年休の取得日数を増やすことには難しさもある。	◎教頭
	○OJTの推進	○OJTが業務の効率化につながった、成長につながったと回答した教員80%以上	・若手と複数教員で校務を担当させ、若手育成につなげると共に、双方の業務負担を減らす。データの共有化をする。	A	・90%の教員がOJTを意識しながら職務を遂行した。互いに声を掛け合い、連携を図りながら授業づくりや校務分掌事務を行った。	A	・先生方は、互いに協力しながら学校運営に携わっている。	◎教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○専門性が向上したと回答した職員が80%以上	・児童理解研による児童についての共通理解を図る。 ・特別支援教育の研修を充実させる。	A	・「学校は、特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上に取り組んだ」のよくあてはまるに回答した教員が、100%だった。 ・児童理解研で情報共有を行い、夏休み期間中に研修を2回行い、教員の専門性向上に努めた。	A	・特別な支援を必要とする児童が増えている。先生方には、さらなる研修の充実と専門性の向上を期待したい。	◎特別支援教育CN

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
◎体験学習の推進	◎学校内外での体験活動の充実と外部講師の活用	◎ふるさと佐賀、唐津への誇りや愛着をもったと回答した児童85%以上	・外部機関と連携し、校外での体験学習を行う。また、講師を招聘し、校内でも体験学習を行う。	A	年間を通して、学校内外において32回の体験学習や講話を実施した。これらの取組を通して、87%の児童が唐津への誇りと愛着をもつことができた。	A	・打上校区の人材や関係団体と連携しながら、地域のよさをさらに伝えてほしい。	◎教頭

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志と誇りを高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・全国および県の学力調査の結果が市・県平均を上回るなど、日頃の学力向上に向けた全校的取組、児童の努力、家庭の協力が着実に成果として表れている。継続的な取組の積み重ねが、学校全体の安定した教育活動につながっていると評価できる。 ・特別な支援を必要とする児童の増加や、教職員の年休取得の難しさといった現状から、人的体制の充実と教職員の専門性向上は重要な課題である。職員が互いに協力しながら学校運営に携わっている点は高く評価できる。 ・地域人材や関係団体とも連携し、地域のよさを生かした教育活動を一層推進することで、学校・家庭・地域が一体となった教育の充実が期待される。